

Forest

2012.1.20 3 学年通信 第 15 号

ミスしたときに

ある教員採用試験受験記

☆ ミスって、だれでもすること

試験がだんだんせまってきて、みんなの中にも緊張感が高まってきているように思います。あれだけいろいろ考えてきた「高校受験」が目前にせまってきているのですから、緊張するのも当然だと思います。

以前、こんなことを書いてきてくれた女の子がいました。

私、なんだか本番でミスしちゃいそうで、とっても不安になってきちゃった。私って、とってもおっちょこちょいで、いつもいっぱい失敗しちゃうし……。何だか、そんなことを考えたら、勉強も手につかない感じなんです……。

なんだか、そんな不安、とってもわかる気がしました。

「当日、ミスしちゃって、自分だけが失敗してしまうんじゃないか」…つい、そう思ってしまうんですね。まわりの人はミスしそうもなく、自分だけがミスをしてしまいそうに見えるし、思えるのです。

けれども実は、誰だってミスはするもの。

「自分以外の人ミスをするのだ」「ミスをして終わりということじゃないんだ」とい

うことがわかることは、みんなにとって、とても大きなことじゃないかと思います。みんなに次のような文をおくります。

ミスした時に

なか かずお
中 一夫

試験を前にキンチョーしているみんなに、今日はボクの試験の思い出を書いてみることにしました。それはそれは恥ずかしく、またおかしくうれしい思い出です。ボクが教員採用試験を受けた時のことです。

※ ※ ※

先生になりたかったボクは、東京、山梨、島根の3つの県の「教員採用試験」をうけました。不勉強がたたって、山梨、島根は一次試験(筆記試験)でダメ。奇跡的に東京だけ二次試験(面接)まで進みました。

その二次試験でのことです。ボクは着なれないスーツを着て試験にのぞみました。ところが、会場についてさっそく入口で首をかしげてしまったのです。なぜなら、入っていいと思って、どこにもスリッパが用意してないのです。「スリッパはどこ?」とキョロキョロするボクのそばで、次から次へと、スリッパをカバンから取り出して中へ入っていくスーツ姿の人たち……。ボク以外の受験生は全員、スリッパを持ってきていて、それに履きかえて中に入ってくのです。

「みんな用意がいいなあ」と感心しながら、スリッパを持っていないボクは受付の人に頼みます。「スリッパを貸してもらえませんか?」

……丁寧に聞いたのに、その人は「受験生のくせにスリッパを忘れたの!」とボクをしかります。「スリッパを持ってくるなんてどこにも書いてないくせに、しかることはないだろう!」と心の中で文句を言います。

その時点では、僕は自分がどれほど大きな

失敗をしていたのか、全く気づいていなかったのです。

とにかくスリッパを借りて控室に入ると、そこでは採用になった時のための書類書きをしていました。渡された書類を見て、ボクは「変だな～」と、思いました。

東京都教職員採用ナントカカント力	
氏名	写真添付欄
住所	※裏に名前を書いて のりづけすること。
本籍	
etc	

「本籍」なんて忘れたよ。……「写真添付欄」があるけど、どこで写真とるのかな？……ボクはそんなノン気なことを考えていました。

そのうち係の人の説明があります。

「いま渡した書類は採用を決めるとても大事な書類ですから、記入の間違いのないようにして下さい」

「写真はここにノリがありますから、それを使って貼して下さい」

ボーゼンとするボクをしり目に、ノリのまわりは写真を片手にした受験生でいっぱいになります。そんなバカな……。どうしてみんな写真を持ってんだ？ 別の通知が後から来たんだろうか？……ボクはだんだん自分の顔から血の気が引いていくような気がしてきました。

あわてながらカバンの中から今回の試験の通知（ハガキ）を取り出します。裏にはたしかに日時と場所が書いてあり、大学の成績証明書（これはちゃんと用意していった）が必要だということしか書いてありません。……あせってパニックになりつつハガキの表を見た時、ボクにはすべてがわかりました。

頭の中で「ガ〜〜ン!!」
という鐘の音がこだまする
ようでした

ウッソー!! そんなー!!
ボクはこの注意書きを一個も
読んでない!……もうだめ
だ、落ちた……。

ボーゼンとしつつも、

この手紙を受け取った時のことが思い出されてきます。裏に書いてあった「1次試験合格」の文字に有頂天になったボクは、その手紙を裏にしたまま柱に押しピンでとめていたのです。ボクがいつも見ていたのは、「合格」の文字と、2次試験の会場と、「成績証明書持参のこと」という、たった一つの注意事項だけだったのです。

バカバカバカ……。いまさら遅い。

5分ぐらいボーゼンとして時間が過ぎていきます。「ボーゼン」といいつつ、頭の中では、いろんな思いががけめぐります。

「外へ出て行って、写真屋へ行って、すぐ写真をとってもらおう！」

……朝の9時なんかにあいてるわけないよなー。

「知らんぷりして、写真をはらずに出そうか!？」…そんなこと、それだけでダメになるに違いないよな。

「あきらめて、帰ろうか？」……せっかくここまで来たのに……。

落ちて来年うける時のために、一度は面接を経験しといた方がいいよなー。それにしても、オレって、何て、バカなんだろう……バカバカバカ……。

そのうちやっと、「まあ、しかたないよ」という気になってきます。

意を決して手を上げました。「あの～、すいません。写真を忘れてしまったんですけど……」。その一言の反響の大きさ！

あっという間に、その場にいた係の人がいっせいにボクのまわりに集まってきました。そしてボクを無視して真剣にその人たちだけで話しあい始めます。

「どうしよう？」

「でも、この書類は絶対に写真ないといけないよ」

……ボクは穴があいたら入りたいたいような気持ちで聞いていました。さっきの決心がすぐに崩れて、「もういいです。ボクのミスですから、もう帰ります」と言いたくなりました。

そのうち結論がでました。「しかたないから、受験票の写真をはがして、ここに貼ってもらうことにしよう！」

ボクはその人たちが探してくれたボクの受験票の写真をミジメな気持ちではがしました。その時のミジメさのせい、うまくはがれなくて、受験票がやぶれてしまいました。とてもとてもミジメでした。

そして、その写真を例の書類に貼った時、ボク
のミジメさはピークに達
しました。こんなはずか
しい思いをしたのに…。

正直、泣きたくなりました。ボクは「不合格」を確信しました。

そしてそのあと、写真のない、破れた受験票を持って面接に向かいました。その結果は？

※ ※ ※

そうです。その結果、今ボクがここにいるのです。

結果は、A採用！（東京では「A採用」「B採用」「不合格」という採用基準があり、ボクはいわば一番優秀なグループ）。そう、ボクは、みごと（？）試験に合格したのです！

自分でも不思議な気持ちになってしまいましたが、いくつか思いあたる点もあります。とにかくこれだけスタートから失敗したボクは、もう「落ちるに決まっている」と腹がすわっていたのです。ですから、面接でのいくつかの質問などにも、あまり「模範回答」を意識したりすることなく、けっこう思ったとおりのことを言えたのです。

さらに、「受験票はどうしたんですか？」という当然の質問にも、「写真を忘れてしまったので、受験票の写真をはがして貼ったんです。ほんとにこういうところがボクの欠点です」などと笑いながら答えたりしたのです。そのボクの笑いにつられてか、試験官の偉い

人たちも一緒になって笑ってたりしました。そんなことで、かえって、ボくらしさが出たのかもしれませんが。

けど、やっぱり、「マグレじゃないか？」という思いはすてられません。そりゃそうだよね。マネしたりしないでね。

※ ※ ※

もし東京都に採用にならなかったら、ボクは今頃、女子高校の先生です（なかば決まっていた）。

「そっちの方がよかったかな〜？」という思いもありますが、考えてみれば不思議なものです。女子高の先生になっていたら、今、中学生のみんなと一緒にいるなんてことはなかったんだもんね。人生先のことはわからないものです。失敗なのか、成功なのか—「その時は失敗だと思っても、長い人生の中で見たら実は成功だったなんてことがたくさんある」と、心から思います。

いや、「失敗したからこそ、新しい自分を発見するチャンスになった」ということがあるのです。

こんな恥ずかしい失敗をしたボクだもの、みんなにえらそうに言えないよね。けど、一つだけ、この経験でボクが気づいたことだけは、みんなにも知っておいてほしい気がするのです。

自分で「あっ、ミスしてしまった！」と思った時は、「あ〜 もうダメ！」って落ち込むけど、ミスしたことを隠したり、あわてるよりも、まず「ミスしてしまった」ということを自分でしっかり認めるといいと思うのです。そうすると、ちょっと落ちついて、

「どうやったらそのミス挽回できるか？」って考えられてもくるようです。そもそも、とりかえしのつかないミスはそんなにはないのです。

ミスのおかげでかえってカシコクなれたり、前よりスバラシイ道が開けたり、そして、ミスなんか自分が気にしてるだけで結果には影響なかったり…いろんな場合があります。

※ ※ ※

今でもボクはいっぱいミスをします。ミスしたことで、あせって体が震えそうになる時もあります。けど、そうやってあせっている間、またそのミスが挽回できなかった時でも、今のボクは心の中で一つの言葉を繰り返し自分に言い聞かせるのです。

どっちに転んでもシメタ！

…そして、「ほんとにそうだなあ」と強く思うのです。[「どっちに転んでもシメタ」というのは、『発想法かるた』（板倉聖宣著、仮説社）という本の言葉（原文は「どちらに転んでもシメタ」）です]

●おわりに

この文は中学3年生には毎年、紹介することにしてあります。最初に「ミスしたらどうしよう、不安だわー」と述べていた女の子は、この文を読んだあと、こんなふうに書いてきてくれました。

この失敗した話を読んで、おもしろくて笑ったりしたんだけどもし、私が同じように大きな失敗をしてしまったらと考えると、気がどうてんしてしまいそうです。でも、このお話を知って良かったなって思います。私が失敗をした時、おろおろせずに少し勇気がわいてくると思います。面接試験がもうそろそろになってきました。「どっちにころんでもシメタ！」って、心の中でくり返してのぞみたいと思います。

彼女の感想を、なんだかとってもうれしい気持ちで読みました。みんなの不安やあせりが、ちょっぴりでも減ってくれるとうれしいと思っています。